

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	◎	商店街（代表者）	単価の動き	・売上が前年同月比で約50%増加し、極めて好調である。特筆すべきはインバウンド需要の劇的な拡大である。一時期は落ち込んでいた中国からのインバウンドによる免税売上が前年比で約3倍に急回復したほか、ドイツや米国を中心とした欧米圏の富裕層による高額品の購入が急増し、免税総額は前年の2.6倍に達している。また、国内観光客の購買意欲も衰えておらず、高単価な伝統工芸品の需要が国内外で同時に高まっている。特定の国に依存しない多極化により、過去最高水準の景況感となっている。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・エアコンの新たな省エネ基準への改定を控え、前倒しでの販売が好調である。
	○	家電量販店（本部）	販売量の動き	・本格的な夏の到来が直前であることと、新たな省エネ基準に改定される前の需要の高まりにより、エアコン購入台数が例年と比較して大幅に増加している。
	○	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・新型車の登場や環境性能割廃止の効果により、販売量は計画より上振れている。
	○	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・改装に投資を行ったことにより、ゴールデンウィークを中心に広域から客が目的を持って訪れており、来客数が増加している。
	○	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・中東情勢や円安傾向などにより良くない経済状況が続いているが、一旦は落ち着いている様子である。特にゴールデンウィーク期間は、旅行や外食を控える傾向もなく、消費者は活発に動いていた。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門はインバウンドを中心に堅調に推移している。宴会部門は3～4月は大型宴会が少なく厳しかったが、今月は順調に予約が入っている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・5月前半は、ゴールデンウィークの影響により観光客が多く盛況であった。その後は、ゴールデンウィークを避けて観光に来る人もみられ、まざまざよい状態である。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク明けは、天候が安定していたこともあり、前年と比べて平日の人出が多かった。暑い夏を予想している洋服店では、夏服やそれに合わせた靴を購入する来街者が目立つ。また、最近は宝飾店で品定めをするインバウンドもよく見かける。
	□	一般小売店 [精肉]（店長）	販売量の動き	・ギフトなどの大口注文が減っている。豚肉や鶏肉など安価な商材の動きは非常に活発だが、牛肉の動きが少し悪く、良いか悪いか分からない状況である。
	□	一般小売店 [鮮魚]（経営全般）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク明けの冷え込みが予想より大きく、販売量は若干低下している。生活必需品の値上げに伴い、節約志向も強まっている。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今年の5月は土日が各1日多く、非常に恵まれた曜日回りだった。加えて、前年5月の当店の休日が今年4月に前倒しとなったため平日も1日増え、売上は2けた増加となっている。ただし、特に婦人服については4月にポイントアップ施策を中止したことで苦戦していたため、今月はその反動で好調に推移したにすぎず、景気が良いとはいえない。
	□	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・主力の化粧品や衣料品は、アイテム、ブランドにより売上の増減があるものの、売上として低迷している。社会情勢と止まらない物価上昇の影響により、節約志向と低価格品志向へ移行している。実際、購入点数は減少し、購買率も低迷するなど、吟味して購入する客が増加し続けている。需要に合わせた低価格商品を提供できず、売り逃しも発生している。
	□	スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・ナフサ関連による価格上昇に伴い、様々な物の値上げが控えるなか、現状は大きな来客数の減少がなく安定している。駆け込み需要を含んでいる可能性があり判断できないため、動向を注視している。

□	コンビニ (店長)	来客数の動き	・売上、利益共に下げ止まっている。客単価は15%上昇しているが、売上は前年比で10%減少しており、単価上昇で売上を維持できない状況が続いている。来客数が激減していることに加え、光熱費と人件費が前年比で1割以上も上昇しており、大変厳しい状況である。
□	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・物価高が続いていることから客の節約志向は強く、必要な物だけを買って求めている。
□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新車の販売量が引き続き少ない。新車購入に対して慎重な様子は変わらない状況が続いている。物価高などの報道が毎日続いていることも一因とみている。
□	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・比較的高価格帯の商品の動きが少し増えたことにより売上を維持しているが、低中価格帯の動きが鈍いため増加には至っていない。
□	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・物価高騰の影響もあり、外食費が削られている。インバウンドはそれなりにある。
□	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークの日並びがよく、例年並みの集客ができています。
□	観光型旅館 (経理)	それ以外	・2024年1月1日に発生した能登半島地震以降休業状態が続いており、再開までにまだかなりの期間を要する。
□	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・団体旅行の取りやめが一部で発生している。
□	通信会社 (職員)	お客様の様子	・客の問合せ内容に変化がみられない。
□	通信会社 (役員)	販売量の動き	・3か月前と変わらず、通信、放送サービス共に獲得契約数が前年と同様のレベルで推移している。
□	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・全体の来客数は前年並みに推移しており、3か月前との比較でも同様の状況である。
□	パチンコ店 (経理)	販売量の動き	・回復の兆しも悪化する兆しもみえない。
□	美容室 (経営者)	単価の動き	・来客数の減少を客単価で補っている。来店サイクルの長期化が大きな原因である。
□	住宅販売会社 (営業)	お客様の様子	・中東情勢の影響が気に掛かるが、まだ身の回りに具体的な事象が起こっていないため、客の動きに大きな変化はみられない。
▲	一般小売店 [事務用品] (店長)	来客数の動き	・メーカーの価格改定により値上げが頻繁にあり、消費者が買うのをためらっている。また、ディスカウントストアの影響も大きいとみている。
▲	百貨店 (販売促進担当)	販売量の動き	・ファッション関連の販売量や売上が低調であり、季節の二季化により春物の動きが鈍い。また、中東情勢や物価高などの影響により、食品以外の商材に対する購買意欲は高いとはいえない。一部の富裕層には株価と連動した動きがあるものの、全体としては悪くなっている。
▲	スーパー (総務担当)	お客様の様子	・客は商品の品定めに時間が掛かっている様子である。
▲	スーパー (役員)	単価の動き	・中東情勢の影響により、包装資材や消耗資材の値上げを受け入れた。価格転嫁するのは一部で、全てをできるわけではない。また、一部地元業者の倒産や廃業が増えている。
▲	コンビニ (店長)	お客様の様子	・ふらっと立ち寄って買物をする客が減り、必要な物、目的の物を目指して買物をする客が増えている。目当ての商品が店頭にないと、何も買わずに退店することも多い。
▲	コンビニ (店舗管理)	それ以外	・ゴールデンウィークの曜日の並びから当月の売上は良いものの、石油製品関係や輸入品の値上がり激しく、経営を圧迫している。
▲	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・物価の上昇が続いており、生活防衛意識は高まっている。
▲	衣料品専門店 (経営者)	単価の動き	・物価が上昇すると購買数が減り、景気が減退する。特に生活に直接影響しない衣類の購買は当然控えめになっている。
▲	乗用車販売店 (総務担当)	それ以外	・中東情勢の影響により、値上げとともに仕入先から入荷しにくい物が増えてきている。

	▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・当店の客は高齢の限られた常連客であり、小規模の経営者が多い。その会話では、品物が入ってこないとか、流通が滞っているという話を聞く。また、物価高による景気の悪循環がみられるという会話も多くなっている。
	▲	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・旅行会社からの団体客は好調だが、ビジネス利用を中心に個人客の前年割れが続いており、客室数は前年並みとなっている。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・インバウンドの利用や県民の夜間飲食が減少し、利用客の動きが悪い。
	▲	競輪場（職員）	販売量の動き	・原油製品等の不足、物価高、人手不足などの不安材料が多く、娯楽のための資金が少なくなっている。
	▲	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・同業者からは、中東情勢の影響により多少の駆け込み受注があったと聞くが、当社ではその伸びはみられない。
	▲	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・中東情勢の影響による原材料価格の高騰や供給不足のため、コストが上昇するとみている。
	×	商店街（代表者）	競争相手の様子	・百貨店、ショッピングセンター共に空き店舗が増加している。物価は上昇しているが、売上は上がらず、早期の割引セールやポイント還元などが乱発されている。
	×	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・5月に入ってから販売量の落ち込みが激しい。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・全ての業種で値上げが止まらなくなっており、消費者の目線は酒類に対して非常に厳しくなっている。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(北陸)	□	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・車載関係を中心に受注量が上向きになっており、量産品に関しては目先良好な傾向にある。しかし、新規案件は引き合いはあるものの、2～3か月先に確実に金型や設備製作の動きがみえているものは少ないため、先々の受注傾向は余り良い状況ではない。
	□	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・年度末のため3～4月の完成工事高は高かったが、中東情勢の影響により主要材料であるアスファルト合材価格が上昇している。
	□	輸送業（管理会計担当）	取引先の様子	・中東情勢などの不透明な要素はあるが、取引先の出荷量に変化はない。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・業種によって差異はあるようだが、全体として好調を維持している。サブスクリプション型の商材は需要が多く、住宅系の業種は投資が伸び悩んでいる。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からは活発な話を聞かない。また、問合せも少ない状況である。
	□	司法書士	取引先の様子	・材料費と人件費の高騰で建物の新築価格が上昇しているが、融資が低金利であるためか、件数自体はさほど減っていない。
	▲	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震の傷がまだ癒えず、震災前の売上を大きく下回って推移しているところ、中東情勢によるナフサ由来の包装資材価格の高騰などもろもろのコストアップが重なり、業績が好転する兆しがみえない。
	▲	繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢の影響により、主原料である石油由来の糸や燃料油などあらゆる原材料価格の高騰が続いており、全て価格転嫁をすることは難しい。また、溶剤やこん包資材などの調達に困難になっており、調達できないと稼働停止せざるを得なくなる。
	▲	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が減少している。
	▲	プラスチック製品製造業（広報）	それ以外	・ナフサ不足の影響より様々な材料が足りておらず、建築現場で遅れが出始めている。また、価格高騰により消費者が買い控えをしている。
	▲	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月は販売量が増加したが、中東情勢の影響を心配した一時的な買いだめ需要によるものであり、その後の反動があるとみている。
	▲	輸送業（経理）	それ以外	・中東情勢の影響により原油価格が高騰している。

	▲	金融業（融資担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響により、石油関連製品の価格が高騰している。近年、各業界で値上げや価格転嫁を許容する雰囲気が醸成されており、値上げの影響による販売量の落ち込みは限定的である。しかし、シンナーに代表されるように、一部資材自体が不足する懸念が現実となりつつある。
	▲	税理士（所長）	取引先の様子	・5月は3月決算の申告月であるため、様々な業種の決算を見ている。3月までは売上、利益とも良かった会社も、中東情勢の影響により物資が入ってこないという状況に陥っている。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(北陸)	□	人材派遣会社 （営業）	求人数の動き	・ゴールデンウィークなどの長期休暇や新入社員採用から漏れた対象者の求人を期待したが、想定より少ない。また、中東情勢の影響による新規受注の減少などが始まっている。
	□	民間職業紹介機 関（経営者）	求人数の動き	・中小企業を中心に人手不足感が強い傾向は変わらない。業種により求人数の増減はあるものの、全体の傾向としては大きな変化はみられない。
	▲	新聞社〔求人広 告〕（営業）	それ以外	・中東情勢の影響が広範囲に広がり、各種費用が実際に増えていたり、増える見込みだったりすることに伴い、支出を減らそうとする動きが顕著になっている。
	▲	学校〔大学〕 （就職担当）	周辺企業の様子	・求人を依頼する企業から、最近では原材料費、燃料費の高騰や調達困難などで苦勞しているとの話をよく聞く。
	×	—	—	—